

研究成果情報	園芸	20	果樹	栽培
新技術・情報名	マレイン酸ヒドラジド液剤によるハウスみかんの秋枝発生防止		分類	③

1. 成果の内容

1) 技術、情報の内容及び特徴

温州みかんの施設栽培において、マレイン酸ヒドラジド液剤を散布することにより、秋枝の発生を防止し、加温後の発芽及び着花を安定させることができる。

- (1) 秋枝の発芽期(2~3mm時)にマレイン酸ヒドラジド液剤を濃度200倍で散布すると秋枝の発生が抑制される。
- (2) 散布濃度200倍の場合、300倍に比べて加温後当初の発芽が遅れるが、その後の発芽及び着花数は変わらなくなり、生育が抑制されるために花が充実して着果数が多くなる。
- (3) 散布後天井ビニルを被覆したままの場合、早期に除去した場合に比べて加温後の発芽が遅れるが、その後の発芽及び着花数は変わらなくなり、着果率は高くなる。

2) 技術、情報の適用効果

温州みかんの施設栽培における結果母枝充実対策として利活用でき、生産の安定が図られる。

3) 適用範囲

温州みかんの施設栽培地域

4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

- (1) 散布時期が遅れると、秋枝が一時的に伸長するが、その後停止する。
- (2) 加温後に薬剤の影響が残ると奇形葉や奇形果が発生する場合があるため、散布回数は1回、散布量も107-ル当たり200~250リットルとし過剰な散布を避ける。
- (3) マレイン酸ヒドラジド液剤は、露地の温州みかん、中晩柑に登録があり、施設栽培の温州みかんについては未登録である。

2. 具体的データ

表1 マリン酸ピラジト液剤散布と秋枝の発生(昭和63年、平成元年)

散布濃度	昭和63年			平成元年		
	発生数	長さ	節数	発生数	長さ	節数
	本	cm	節	本	cm	節
200倍	0	-	-	0	-	-
300倍	0	-	-	1	5	6
無散布	18	20	11	21	27	14

注) ① 昭和63年は上野早生、平成元年は宮川早生で調査
 ② 秋枝発生数は1樹当たり

表2 マリン酸ピラジト液剤の散布濃度と加温後の生育 (平成元年)

散布濃度	発芽節率			結果母枝100節当たり					
	2/8	2/13	2/20	新梢数	有葉花	直花	花計	着果数	着果率
	%	%	%	本	花	花	花	果	%
200倍	41	80	84	1	27	88	115	42	37
300倍	53	84	87	1	44	73	117	27	23
無散布	28	60	67	3	34	48	82	34	41
無散布(秋枝)	0	3	12	1	9	2	10	4	41

注) ① 品種は宮川早生でマリン酸ピラジト液剤は9月4日に散布、加温開始は1月28日
 ② 無散布(秋枝)は秋枝の発生した結果母枝

表3 マリン酸ピラジト液剤散布後の天井ビニル除去と加温後の生育 (平成元年)

天井ビニル除去時期	発芽節率				結果母枝100節当たり					
	12/26	12/30	1/5	1/11	新梢数	有葉花	直花	花計	着果数	着果率
	%	%	%	%	本	花	花	花	果	%
除去せず	5	17	51	60	1	0	87	87	25	28
10月上旬	6	30	53	60	1	8	70	78	15	19
9月上旬	14	39	51	53	0	0	90	90	11	12

注) ① 品種は山川早生、マリン酸ピラジト液剤は9月4日に300倍で散布
 ② 加温開始は12月17日

3. その他特記事項

担当部科室名：園芸研究所 果樹部 常緑果樹研究室

研究担当者名：矢羽田第二郎、大庭義材、松本和紀

研究課題名：温州みかんの施設栽培における高品質果実の多収生産技術

期 間：昭和63年～平成2年

予算区分：経常

既発表論文・資料名等：昭和63年～平成2年度福岡県農業総合試験場

果樹関係試験成績書

取りまとめ責任者名：大庭義材